

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 高大接続改革の中で、高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、各大学の個別選抜や総合型選抜等を含む大学入学者選抜全体において、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の総合的な英語力を評価することが求められている。共通テスト「外国語（英語）」は、「リーディング」形式と「リスニング」形式の問題を通して、文字や音声による試験の特徴を生かしながら、以下のように可能な限り総合的な英語力を評価する。
 - ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を引き続き重視する。
 - ・併せて、高等学校において、英語を「聞くこと」・「読むこと」・「話すこと[やり取り]、[発表]」・「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られることを踏まえ、情報や自分の考えを適切に表現したり伝え合ったりするために、理解した情報や考えを整理したり、何をどのように取り上げるかなどを判断したりする力を重視する。
 - ・また、コミュニケーションを支える基盤となる音声や語彙、表現、文法等に関する知識や技能についても、上記の力を問うことを通して引き続き評価する。
- 「リーディング」、「リスニング」とともに、共通テストの問題のレベルは、出題範囲としている科目（「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」及び「論理・表現Ⅰ」）の目標及び内容（言語活動の例、言語の使用場面や働きの例など）等に対応したものとする。その際、多様な入学志願者の学力を適切に識別できるよう、引き続き、CEFRの概ねA1～B1レベルを目安として問題のテキスト、使用する語彙、タスクなどを設定し、問題を作成することとする。
- 「リーディング」の表記については、現在国際的に広く使用されているアメリカ英語に加えて、場面設定によってイギリス英語を使用することもある。
- 「リスニング」の音声については、多様な話者による現代の標準的な英語を使用する。また、読み上げ回数については、1回読みと2回読みの両方の問題を含む構成で実施することとする。

2 各問題の出題意図と解答結果

本部会では上記の方針を踏まえ、高等学校卒業段階で到達すべき英語力を公正かつ正確に測定する問題作成に向けての検討を継続的に行ってきた。令和7年度共通テストでは、平成30年に告示された学習指導要領に基づく教育課程を踏まえ、新傾向の問題（第4問と第8問）を出題した。また、昨年度までに実施した共通テストの結果を踏まえ、各大問で測るべき言語能力を検証し、様々な方法で問うことができるよう配慮した。さらに、実際のコミュニケーションを重視するという観点から、問題の指示文等を英語とする形式も踏襲した。問題構成については、昨年度まではA、Bの2題で構成される大問が存在したが、本年度は新傾向の問題が二つ加わることを考慮し、全ての大問が1題で構成されるシンプルな形式に整えた。その結果、設問数は33、解答数は44、本文と設問及び選択肢を合わせた総語数は約5,600語となった。

各大問の出題意図は以下のとおりである。

第1問	簡単な語句や比較的平易で短い文で書かれているテキストを読み、情報を理解する力を測る。ここでは、文具店の広告について読む。
-----	--

第2問	簡単な語句や比較的平易で短い文で書かれている説明を読み、その概要や要点を把握したり、推測したり、また、事実と意見を整理しながら情報を読み取ったりする力を測る。ここでは、日本の家庭における夫婦の役割の変化に関する記事を読む。
第3問	平易な英語で書かれたごく短い物語文を読み、概要・展開を把握する力を問う。ここでは、主人公が夢の中で宇宙旅行をしている最中に、その夢から覚めるという文章を読む。
第4問	英語の授業において文章を作成する過程で、自分が書いた原稿に対する教師のコメントを踏まえて、読み手に分かりやすいように文章の論理の構成や展開に配慮して文章を修正する力を問う。ここでは、推敲することを前提に、毎月1回宿題のない週末を設けることに関する作文を読む。
第5問	平易な英語で書かれた複数の資料を比較しながら、必要な情報を読み取り、論理の展開や書き手の意図を理解する力を問う。ここでは、フェスティバルの開催に関する記事と、昨年度のイベントの調査結果、それらに基づいて作成したメモを読む。
第6問	平易な英語で書かれた物語を読み、その概要を把握する力を問う。ここでは、ある男の子が一人で祖父母のところに旅行することになり、その道中で起きたことに関する物語を読む。
第7問	日常的、社会的話題に関する文章を読み、概要を把握し、情報を整理する能力や論理展開を把握する能力を測る。ここでは、硬水と軟水についての記事を読む。
第8問	社会的な問題に関して異なる意見が書かれた複数の資料を読んで理解した上で、自分のとる立場を支持する資料を見極め、作文のアウトラインを作成するために様々な資料から情報を得る力を問う。ここでは、動物園の是非についての資料を読む。

本年度の「英語（リーディング）」の追・再試験はおおむね適切なレベルであり、全体的にバランスのとれた標準的な問題であった。各問題の解答結果について以下に詳細を述べる。

第1問は三つの設問とも比較的容易に解答でき、最初の大問としては適切な難易度であった。問2については、広告のある一部分の情報を読み取るのではなく、全ての商品の共通項を読み取る問題であったことから他の設問と比べて深い読みを求められる問いであった。

第2問のうち問3を解くためには、問題文中の一つの段落に書かれた内容と設問の選択肢の両方を詳細に読み取って情報を照合させる必要があり、細やかな読みが求められる設問であったため、他の問いと比べて難しかったと考えられる。

第3問は物語文を読む問題であった。問2は物語の展開に合わせて選択肢を時系列に並べ替える問題で、物語文ならではの読み取りを促す問いであったが、完答問題であったことから、他の問いと比べて難しかったと考えられる。

第4問は全体的に適切な難易度であった。問1は、宿題の在り方について提案したい内容を正しく読み取った上で、著者として読者に分かりやすく伝えるためにはどのようなタイトルが適切であるかを考えさせる問いで、エッセイライティングにおいて不可欠な要素に焦点を当てた設問であった。学校現場への波及効果の観点からも、引き続き「書くこと」の指導を意識した問題を出題していきたい。

第5問は、複数の文章から読み取った情報を比較したり整理したりする力が求められた。問2については、問題文中の特定の箇所の記述を読み取れば正解できる問いであったことから、解答は比較的容易であったと考えられる。

第6問は物語を読み、概要及び展開を理解する力を問う問題で、問1では描かれた情景に合うイラストを選ぶ問題を出題した。この設問で問われているような、読み取った情報から場面の情景を思い描く力は、物語を読み進める上で不可欠であり醍醐味でもあることから、この大問の最初の問いとし

ては適切であったと考えられる。一方で、物語内の出来事を時系列に並べ替える問2は、完答問題であったこと、そして、選択肢に不要なものが一つ含まれていたことから比較的難しかったかもしれない。また、物語の登場人物の性格（人物像）を読み取らせる問3も問2と同様に完答問題であった。難易度は適切であったと考える。

第7問全体としての難易度はおおむね適切であった。問2については、硬度による水の分類基準を読み取って表にまとめる問いであったが、選択肢の文言に順序を示すヒントが含まれていたことが、解答を容易にした可能性がある。

第8問において、問1と問2は各資料に書かれた内容を読み取る設問で、比較的容易であった。一方、自身の立場を明らかにした上で、それを支持する資料を複数選び、そこに共通した論点を読み取らせる問3については、特に複数の資料の共通点を読み取る問い（42）が受験者にとっては難しかったかもしれない。この問いは第8問の出題意図が顕著に表れた設問でもあり、他の大問に類似した設問がないことから、妥当な出題であると言える。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

各方面からは比較的肯定的なコメントが得られた。

まず、高等学校教科担当教員からは、「日常的な話題から科学的な話題まで幅広く取り上げられており、場面や状況の設定も受験者が想像しやすいよう工夫されていて、実際のコミュニケーションにおいて英語を運用する力を測ることができるように配慮されている」など、高い評価を得た。さらに、「知識を基に、コミュニケーションの目的に応じて英文を読み、思考力・判断力・表現力等を発揮しながら概要や要点を捉えたり、情報を活用して推測したり再構築したりする内容」との評価から、学習指導要領が掲げる方向性に沿ったものになっていると言える。また、「様々な難易度の問題が、全体的にバランス良く配置されている」とのコメントが寄せられ、高等学校の現場から見て、受験者の英語力を適切に測っていることが確認された。

各設問についても全体的に高評価を得たが、まずは特に「良問であった」との評価が付されたものについて見解を示す。

第4問については、新傾向の問題であったが、高等学校での学習過程を意識した出題であり、「全体を踏まえて表題を考えたり、文と文のつながりを考えたりと、概要把握力や論理的思考力を問う良問である」とのコメントが寄せられたことから、出題意図が適切に具現化された問題であると言える。

第5問については、「実際に英語を使用する過程が問題に落とし込まれている良問」、「目的達成のために調査結果や前年のコメントを踏まえた改善策を問うなど、資料の要点を捉えた適切な設問であった」とのコメントから、目的・場面・状況に合わせた実際の言語使用場면을試験問題の設定に生かした工夫が評価されたと言える。

第7問では問4において、「正確で注意深い読みが問われる良問であった」とのコメントが寄せられたことから、文章の概要を理解する力に加えて細部まで読み取る力を共通テストが測っていることが評価されたと言える。

第8問については、「発信力を問うための設問が工夫されており、論理的思考力を問う適切な設問」、「資料を基に構想を練り、立場を明確にして作文の概要を作成する過程は高等学校での言語活動の参考となる」と、授業展開を意識した出題形式が評価されたことから、高等学校の現場への今後の波及効果が期待される。特に問3については、「作文を書くに当たり、共通の主張を持つ人物を選んだ上で、そのそれぞれの主張の抽象化が求められ、難易度は高いが良問であった」とのコメントが寄せられ、高等学校での指導の流れを意識した状況設定の工夫が評価されたと言える。

また一方で、改善に向けての指摘も頂いた。例えば、第6問の設定について、日本国内が舞台となっていると思われる物語を英語で読ませることの不自然さが指摘された。より自然な場面設定を目指していきたい。また、第7問の間2については、「間2の表は発表としては必要かもしれないが、資料なしでも解答がある程度想像できる」という指摘があり、「複数のスキルの統合的な力を問うという点からは、図表を言葉で表すという問いがあっても良いかもしれない」との提案を頂いた。より良い問題作成のための検討を今後も続けていきたい。

教育研究団体からは、試験全体について、「様々な資料や図表を通して英文を読み、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う内容」であり、「学習指導要領における目標を反映した出題となっている」と高評価を頂いた。さらに、「新しい学習指導要領のねらいを反映した問題形式が出題されるなど、改善への高い意識を感じさせるものであった」とのコメントが寄せられたことから、出題意図が十分に反映された試験であったと言える。一方で「今年は例年に比して、本試験と追・再試験の形式の相違が見られた印象がある」とのコメントも寄せられた。両試験の均質性・公平性に引き続き留意していきたい。

各設問についても、おおむね高い評価を頂いた。例えば、第1問の間1について、「受験者にとっても取り組みやすい問題で、最初の問題はこういったレベルから始まることが望ましい」というコメントが寄せられたが、引き続き同様の配慮を続けていきたい。また、第2問について、「社会的事象について考えさせるテーマは好ましい。授業の現場においても、こういった問題について読んだり、聞いたり、話したり、書いたりする機会が多く創出されることにつながっていくと考えられる」とのコメントが寄せられた。引き続き、受験者及び教育現場への波及効果を意識し、テーマ設定を工夫していきたい。第3問の間3については、「このように類推を求めるような問題は良問であると言える」とのコメントが寄せられた。物語文ならではの設問でもあり、今回の評価を今後の問題作成に生かしていきたい。第7問と第8問については、文章の読解や情報の整理にある程度の時間を要する問題であったが、受験者の力を測る良問であったとのコメントが寄せられたことから、共通テストの後半の問題として適切なレベル、内容であったと言える。

一方、設問によっては改善の余地があるという指摘もあった。第6問については、問題文の物語としての精度に関して、問1の正解の根拠となる老婦人の行動（腕と足を広げて席に座る）について、「心温まる物語の善良な登場人物が取る行動と余り結び付かないものであった」という指摘があった。解答には影響が及ばないとはいえ、受験者に読ませる文章の質をより高いものにするため、この指摘を今後の問題作成に生かしていきたい。

4 ま と め

「英語（リーディング）」は、全科目の中で最も多くの受験者が受験する科目であることから、大問ごとにCEFRのA1からB1相当のレベルまでの難易度を設定し、幅広い受験者層に対応できる問題構成としている。今年度の共通テストではこのレベル設定を保ちつつ、学習指導要領の改訂に沿った新傾向の問題が初めて出題された。あらかじめ試作問題が公開されていたこともあり、本試験と同様に特に混乱は見られなかった。

今後も高等学校においては、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力の育成を目指し、技能を統合した言語活動の充実が図られることが期待される。そのような授業を経て英語力を培った受験者たちが、存分に実力を発揮して取り組める問題作成に引き続き取り組んでいきたい。